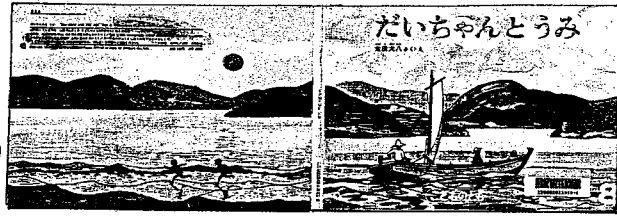


子どもたちといっしょに

「だいちゃんとうみ」太田大八  
さくえ  
<こどものとも> (福音館書店)



夏が来ると、必ず思い出すのが、この絵本です。海への子どもも、都会の子どもも、この絵本のような一日を過ごした経験を、今のたいていのおとたちは、持っているでしょう。すきとおるような空気と、海のきらめき、潮の香りが、どの頁の絵からもただよってきて、夏のなつかしい想いが、心をいやしてくれます。

登場人物の関係などはわかっていないけれど、そんなことも想像したりして読んでいくのも、おもしろく、楽しいものです。あなたも、ゆらゆらゆらしているあさせに、あしをひたしてみたくくなりますよ。



第22回読書会  
「ヒナギク野のマーティン・ピピン」(岩波書店)  
アージュン作品集5  
イギリスのファンタジー文学の基礎を築いたアージュンの作品です。

野の少女たちに語り物言語の短文篇集です。おとたちから「もう寝る時間だよ」と言われるのを何よりもいやがる、小さな女の子たちに、マーティンは語り物します。

日時・8月18日(日)1:30~3:30  
場所・学習館1階42  
ご希望の方は、カウンターまで  
《しろね図書館・しろね図書館友会の会 蔵》

8月の行事 ブックバス予定

|   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| 1 (木) 夏休みアスバツ映画祭  |  | 22 (木) 手づくり絵本の会10:00   |  |
| 2 (金) 夏休みアスバツ映画祭  |  | 23 (金) 手づくり絵本の会10:00   |  |
| 3 (土) おはなし会3:00 岩波書店 大田加生 14:00~14:30 大鷲善光 14:30~15:20 藤澤 15:20~16:20 |  | 24 (土) おはなし会3:00 新館図書会 14:30~15:00 戸石公堂 15:30~16:20                                |  |
| 4 (日) この子たちの夏練 9:30~  |  | 25 (日) この子たちの夏練 9:30~  |  |
| 7 (水) 絵本のじかん3:00~   |  | 28 (水) 絵本のじかん3:00  |  |
| 10 (土) おはなし会3:00~   | 新館図書会 14:30~15:00 戸石公堂 15:30~16:20               | 29 (木) 手づくり絵本の会10:00   |  |
| 14 (水) 絵本のじかん3:00~  |  | 30 (金) 手づくり絵本の会10:00   |  |
| 17 (土) おはなし会3:00~   | 大田加生 14:00~14:30 大鷲善光 14:30~15:20 藤澤 15:20~16:20 | 31 (土) この子たちの夏練 9:30~  | 大田加生 14:00~14:30 大鷲善光 14:30~15:20 藤澤 15:20~16:20 |
| 18 (日) この子たちの夏練 第22回読書会   |  | 7/1 (日) 日程 学習館ラスパルクホール 13:00~15:20 「平野をいつまでも」(第一部)広尾記念式典参加者報告会 (第二部)朗読劇「この子たちの夏」上演 |  |
| 21 (水) 絵本のじかん3:00~  |  |  |  |

しろね図書館だより

発行 白根市立図書館  
平成 14年8月1日  
No. 27

ご利用ありがとうございます。いよいよ夏休みがやって来ました。図書館が一番賑わう時です。当館は、すべてのご利用いただく方たちに、気持ちよく使っていただくために、館内の立つ読席がいっぱいになった時は、2階の学習館の1室を提供しますので、ご協力ください。

7月の  
来館者 ----- 19,405人 (視察5 見字125)  
貸出冊数 ----- 13,962冊  
予約件数 ----- 196件  
ブックバス利用者 ----- 452人  
ブックバス貸出冊数 ----- 1,421冊

リクエスト情報(しばらくお借り下さい)  
7位・「4と4尋の神隠し」(21人)  
2位・「ハリポッターと秘密の部屋」(17人)  
3位・「模倣犯」下(3人)  
4位・「若いころ人生」(2人)  
5位・「本当は怖い川童話」(2人)

手づくり絵本をつくろう!

長野ヒデ子さん講演会・原画展につづいて、絵本づくりをします。お子さん誕生にまつわる絵本をつくらせてみませんか?おとたちになってからも、「宝物」になりますよ。つくり方は、簡単!ご指導致します。参加資格:小学校3年生以上  
8月22日(木)・23日(金)・29日(木)・30日(金)の4日間をかけてつくりますので、4日間参加してください。  
場所・創作活動室2・時間10:00~12:00  
申し込みは、図書館へ 主催・しろね図書館友会の会  
TEL 372-6239 共催・しろね図書館

こわ〜いおはなし大会  
<とき> 8月24日(土)  
1回目・3:00~3:30 (ちいこもどろ)  
2回目・3:30~4:00 (小学生以上)  
3回目・4:00~4:30 ( " )  
4回目・4:30~5:00 ( " )  
<ところ> しろね図書館おはなしのへや  
<対象> 2回目からは小学生以上  
2:30から整理券をくばります。  
1回30人までです。  
この日は、各回、違う「おはなし」ばかりです。  
お父さんと、お母さんと、おとたちと、たのしみにおいでください。  
ブルブル! コワイ! キャー!  
暑さもふきとびます。

楽しかった！おもしろかった！良かった！

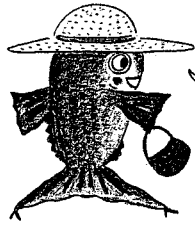
絵本作家 長野ヒデ子さんの講演会と原画展



7月21日(日)の講演会『ふしぎとうれしい絵本と紙芝居』は、160名の参加があり、優しい、物ごとを大切にされる長野さんの講演内容に、参加者から「楽しかった」「おもしろかった」「とても良かった」「もっとききたかった」「ワークショップも、もっとしてほしいかった」と嬉しいご意見をたくさんいただきました。

また、21日(日)から26日(金)まで開催した原画展も500名の方が観て下さいました。「おかあさんがおかあさんになった日」の明るい色調と、「海をかえして！」の洋画タッチの深い色調絵。その間に一枚「せとうちたいごさん えんそくいきタイ」がデンとかかり、面白い原画展となりました。皆さんありがとうございました。

主催：しろね図書館友の会  
後援：白根市教育委員会・しろね図書館



あいたーい。またみんなにまたあいたーい。



～図書館員がおすすめするこの一冊～

図書館では料理(食)に関する本がコンスタントに借りられている。一方、BSE(牛海綿状脳症・狂牛病)・産地偽装・無認可添加物問題など、私たちの食生活を取り巻く環境が大きく揺らいでいる。そんなこともあり、現在図書館の企画展示コーナーでは「食を考える」をテーマに、様々な分野の「食」に関する本を展示紹介している。今回は、その中から欲張って3冊の本を紹介する。

『メダカが田ぼに帰った日』 金丸弘美/著 (学習研究社)

不耕起栽培(自然耕栽培)という、文字通り田を耕さない米作り。植物が持つ本来の生命力を引き出すことにより、しっかりと大地に根を張った稲は、冷害にも強く収穫量も従来の手法より多くなったという。加えて、不耕起栽培の田ぼにはメダカをはじめ、カエル、トンボ、ドジョウなどの生物が戻ってきている。これに着目したのが佐渡郡新徳村。同村では、近い将来、自然の中に朱鷺(トキ)を戻す計画があるという。そのためには、朱鷺のエサがどうしても必要となり「不耕起栽培の田ぼが役立つのではないかと、今その取り組みが行われている。

『NHKたべもの新世紀 食の挑戦者たち』 (日本放送出版協会)

本書には、本市根岸地区の枝豆栽培農家の活動が載っている。農業は今、産地間競争から農家間競争の時代に入りつつある。そんな中で、枝豆のブランド化をめざし、品種の選定、土作り、収穫後の鮮度保持方法などの取り組みが紹介されている。そして、何より大切にしていることが、消費者と生産者との情報交換。そこから生まれた新たな絆を通して、安全でよりおいしい枝豆を消費者に届けるため、飽くなき挑戦が続けられている。

『土を喰ふ日々』 水上勉/著 (文化出版局)

著者が約1年間にわたって軽井沢の山荘にこもって、畑をつくり、そこで穫れたものを中心に、少年時代から禅寺でおぼえた精進料理をつくる話である。大地と大地が育ててくれた野菜に対する感謝と愛情を忘れず、それを無駄なく生かした禅宗ならではの調理法。近年、多くの人が頭で喰い、味わっているところが見えるので、わざわざ口で喰らえと、この題名にしたという。

著者が修行したお寺の住職は、とても酒好きなこともあり、それに合う料理が多く載っている。

(副館長 関根 律)

第二十一回読書会

「影との戦い」ゲド戦記I

ルリグウイン

訳作

清水真砂子

いよいよ読書会の本が決定！前から読みたかった本！読書会までに1〜IV読みまくっちゃーい！

とうとうゲド戦記I〜IV読み終えた。読み始めてからおしまいまでの数日間はとてもワクワクして楽しかった今回の本は大満足★☆☆☆☆切るまでとはとても眠れないし、気分は魔法使い！

某月某日(木)

平成十四年7月7日(日) 晴れ

今日はどのくらい集まるかな？

私は、読む間はとても素晴らしい毎日だったけど、他のみなさんはどうだったのかな？色んな感想聞きたいと思っております。A子さん聞かせてください。どうぞ！

A子「今回の本は、全部読み切らなかったのですが、みなさんのお話を聞きたくて参加しました。なかなか私はファンタジーの世界に入れないで進まなかった」

B子「私も同じ気持ちだったよ。」

ああ！確かにそう。話を合わせるわけではないですが、初めはなかなか、物語に気持ち乗らなくて...

ここでなんだか、A男さんに視線が移っていた。

A男「私は、今回の作者がもともと好きなんです。だから、この世界に入りやすかった。実は、以前から読みたかと思いがらまだ読んでなかったの。いい機会になりました。読んでみると、前々回の読書会の『ともひびをかがけて』と比較してしまいますね。私はあつちの方が良かった。これにはなんといい言葉もない。そこがファンタジーの世界を広げているとは思いますが」

でも乗ってしまえば、楽しめますよ。きつと。魔法使いの世界はどんなより？薄暗くて煙りがあがっているイメージ。いえいえ。その暗闇こそが魔法の世界なんですよ

B男「読んでみて、内容の奥深さを感じましたね。書名の『影』とは？これは、自分自身の悪心です。『死の影』としても言えますけどだれにでも存在するものだからこそ、共感できて、この物語に惹かれる」

C子「『影』はゲドがおこりから生み出したものだから(自身の弱さ)みたいな感じがしたものでしょうね」

A男「二の物語の舞台となるアースシー(多島海世界)はルリグウインの造ったものなんですよ。すごい想像力ですよ！この世界をゲドは『影』から逃げたり、追いかけてたります。魔法があるなら単純に鳥になつて逃げたいのと同じだと思いますよ」

私もゲドが鷹になって海を渡った時になんで、いつも船なんだろう？って思ってしまったけれど、ゲドが鷹から人間の姿に戻れたくなつてわかりましたけど

C子「それが出来ないところが物語だし、『力の均衡』とありましたが、ここまでは、地図で確認しながらという楽しさもありますよ」

A子「私はなんだかイメージしづらい事が多かった。この年齢になるともうこの世界に入れないじゃないですか？」

C子「そんな事はないと思いますよ。私は何度読んでも面白いです。この第一巻でゲドの成長から始まって第四巻ではゲドが普通の人間になつていくというゲドの人生が描かれています。冒険だけではないところが、ルリグウインの素晴らしいですよ」

A子「そうですね。それでは最後まで読んでみます。まだ、みなさんの話していた所まで進んでないので続きを借りて帰ります」

B子「私もですね、第二巻やその続きを読んでみたいと思います」

C子「次々回はC・Sルイスの『ライオンと魔女』です。これも面白いファンタジーですね」

この作品もぜひ、読んで欲しいお薦め本です！「影との戦い」ゲド戦記Iを読んで下さる方も、これからの方もぜひ読んでください

ルリグウインについてお話しできると、彼女の母親もまた素晴らしい作家なのです。「イン」北米最期の野生インディアン」の著者で知られているシオドーラ・クローバー。父親は著名な文人類学者。